



図 5. 三宅島 山頂火口の状況 (8月22日 北西側上空より)

●福徳岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

7月10日, 26日に海上自衛隊が, 8月25日に第三管区海上保安本部が行った上空からの観測で, 火山活動によるとみられる変色水が確認された。

●阿蘇山 (32°53'01"N, 131°05'49"E (中岳))

火山活動は静穏な状態となった。

中岳第一火口では, 湯だまり量は10割で経過し, 表面温度も60℃以下と低く, 熱活動は低調な状態となった。また, 土砂噴出もないなど火山活動は静穏になった。地震活動, 噴煙活動は低調な状態で, 地殻変動観測や, 地磁気全磁気観測でも特段の変化はなかった。

▲桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

噴火活動は小規模な噴火が時折発生する程度の比較的静穏な状態になった。

南岳山頂火口では, 従来同様, 小規模な噴火を繰り返している。

昭和火口では6月4日に噴火が始まり, 6月20日まで小規模な噴火を繰り返していたが, 6月21日以降噴火は観測されていない。なお, 8月下旬以降時折弱い噴気が確認されている。

7月26日に海上保安庁が行った上空からの観測では, 昭和火口は前回6月16日に比べ, 火口の大きさや噴出物の堆積状況に特段の変化はなかった。

火山性地震や微動はやや多い状態が続く, 振幅のやや大きいものも時々発生した。

地殻変動観測では, 始良カルデラの地下深部へのマグマの蓄積を示す長期的な地殻変動は継続しているが, 桜島直下への大規模なマグマの移動を示す地殻変動は認められていない。

●薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発で, 噴煙高度の最高は火口縁上800mであった。

火山性地震はやや多い状態で経過した。また, 7月13日に継続時間が約1時間の火山性連続微動が発生したほか, 8月19日~20日にかけてごく小規模な火山性微動が3回観測された。

●口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

2005年7月以降火山性地震は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。火山性微動は観測されなかった。監視カメラ(新岳の北西約4kmに設置)による観測では, 噴気は認められなかった。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

7月26日, 27日, 30日, 8月13日, 14日および28日に爆発的噴火が発生したほか, 小規模な噴火も時々発生し, 噴火に伴い, 火山性連続微動が観測された。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると, 7月29日~31日と8月1日, 12日~15日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が認められた。火山性地震はやや多い状態で経過した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

火山活動解説資料

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責: 気象庁地震火山部火山課 相澤幸治)

○機関研究員の募集について

【名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山・防災研究センター】

職 名: 機関研究員

募集人数: 1名

所 属: 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山・防災研究センター

専門分野: 固体地球物理学分野研究の手法等は問わないが, 地震, 火山, 防災に関する研究への貢献を期待する。

応募資格: 採用時に博士の学位を有し, 35歳未満の者

任 期: 採用から原則2年間。ただし, さらに1年間の延長が認められることがある。

任用時期: 採用決定後のできるだけ早い時期

待 遇: 交通費支給(限度額あり), 社会保険, 厚生年金制度あり。

提出書類: (1) 履歴書

- (2) 研究業績リスト（論文の場合は査読の有無を区別すること）
- (3) 主要論文（3編）の別刷りまたはコピー
- (4) 採用期間の研究計画（A4一枚程度）
- (5) 応募者について照会可能な方2名の氏名と連絡先

締め切り：平成18年9月27日必着

提出先：〒464-8602 名古屋千種区不老町 名古屋
大学大学院環境学研究科附属地震火山・防災
研究センター 山田功夫宛

封筒の表に「機関研究員応募書類在中」と記し、書留
または簡易書留にて郵送すること。

その他：名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山・
防災研究センターの詳細はホームページ（<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/>）を参照のこと。

連絡・問い合わせ先：電話：052-789-3046

E-mail: yamada@seis.nagoya-u.ac.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月30日送信しました）

○教員の公募について

【九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門】

1. 職種・人員 太陽惑星系物質科学講座担当教授 1名
2. 専門分野 物質進化地球化学
[有機物、固体地球、宇宙、同位体、大気、環境等に関する地球化学を研究し、かつ教育に熱意のある方を希望します。太陽惑星系物質科学講座では、宇宙や地球環境で物質（有機物、無機物）が全体として進化していくという視点に立つ新規の研究分野の設置を予定しています。]
3. 着任時期 平成19年4月以降
(決定後なるべく早い時期)
4. 提出書類
 - (1) 履歴書
 - (2) これまでの研究概要（A4用紙2枚以内）
 - (3) 研究業績リスト（原著論文（査読の有無）、総説、報告書、著書に区分）
 - (4) 主要論文の別刷り3編（研究業績リストに○印を付す）
 - (5) 研究・教育に対する抱負（A4用紙2枚以内）
 - (6) 応募者について意見を聞ける方2名の氏名とその連絡先並びに応募者との関係
5. 公募締切 平成19年1月31日（水）（必着）
6. 書類送付先および問い合わせ先
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門

太陽惑星系物質科学講座担当教授候補者選考委員会
委員長 赤木 右

Tel: 092-642-4187（ダイヤルイン）

Fax: 092-642-4187

E-mail: akagi@geo.kyushu-u.ac.jp

7. その他

- (1) 提出書類のうち、(4)以外は全てA4用紙を使用すること。
- (2) 封筒に「応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送のこと。
- (3) 選考の最終段階において講演をお願いし、面接を行います。
- (4) 男女共同参画社会基本法（平成11年法律第78号）の精神に則り、教員の選考を行います。
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月4日送信しました）

○EPS 電子版アクセス方法

地球電磁気・地球惑星圏学会、日本地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本惑星科学会（以下、各学会と略す）の共同刊行により、EARTH, PLANETS AND SPACE（以下、EPS誌と略す）が発行されています。

このたび、火山学会員のEPS電子版へのアクセスが可能となりました。

このためには、以下の手順でパスワードを発行する必要があります。

<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/VSJ/>

において、Your IDに学会識別符“V”+“整理番号（「火山」送付封筒の郵便ラベルに記入されている）”Last Nameに名字のアルファベット表記（最初の1文字は大文字、残りは小文字）を入力します。

各自のパスワードが一度だけ発行されます（IDとパスワードの記録を絶対にお忘れなく）。

例

Your ID V17389

Last Name Kuno

EPS電子版へは、以下のURLから、このIDとパスワードを使いアクセスできます

（※所属機関が出版社と契約している場合や古い論文、e-Letterは、ID、パスワードの入力が必要とされない場合もあります）。

<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月27日送信しました）

○東濃地科学センター 地層科学研究情報・意見交換会
【独立行政法人日本原子力研究開発機構東濃地科学センター】

独立行政法人日本原子力研究開発機構東濃地科学センターでは、高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発の一環として実施している深地層の科学的研究(地層科学研究)についての研究開発の状況や成果、さらに今後の研究開発の方向性について、大学、研究機関、企業等の研究者・技術者等に広く紹介し、情報・意見交換をさせていただきたく、下記の通り「平成18年度東濃地科学センター地層科学研究情報・意見交換会(以下、「情報・意見交換会」)」を開催することとなりました。

1. 日 時:平成18年10月19日(木)、20日(金)
2. 場 所:瑞浪市総合文化センター講堂
(岐阜県瑞浪市土岐町7267-4)
3. 参加費:無料
4. プログラム
(10月19日13:15~)
 - ・東濃における地質環境特性の調査・評価技術開発
 - ・超深地層研究所を利用した研究事例
 - ・ポスターセッション
 - ・全体質疑
 - ・懇談会(希望者のみ/会費制)
 (10月20日 9:30~)
 - ・地質環境の長期安定性に関する報告
 - ・ポスターセッション
 - ・瑞浪超深地層研究所の現場見学(希望者のみ)
 詳細につきましては、<http://www.jaea.go.jp/04/tono/index.htm> をご参照ください。

問い合わせ先:
独立行政法人日本原子力研究開発機構東濃地科学センター
「平成18年度東濃地科学センター地層科学研究情報・意見交換会」事務局
TEL; 0572-66-2244 FAX; 0572-66-2245
e-mail; tono-kokankai@jaea.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月30日送信しました)

○Steve Sparks 教授の講演のご案内

千葉大学において平成18年10月5日、6日に英国ブリストル大学の Steve Sparks 教授の講演を行います。この予定につきまして、お知らせします。いずれも公開、参加費無料ですが、参加される方は事前にお知らせください。研究者向け講演は10月6日(金)

です。
また、6日昼の弁当の予約(実費)を承っております、希望される場合、あらかじめ連絡をお願いします。
平成18年10月5日(木) 3:00pm-5:00pm
2006年千葉大学サイエンス・レクチャー
(千葉大学理学部学生向け講義)
場所:千葉大学けやき会館1階大ホール
入場2:30pm・開演3:00pm
演題「火山が創る地球の未来」
講演者: Steve Sparks 英国ブリストル大学教授
同日6:00pmより生協第一食堂にて Sparks 博士夫妻との交流会。

平成18年10月5日(木) 9:30am-2:00pm
場所:自然科学研究科1階大会議室
9:30am 研究者向け Technical Lectures
Talk 1: Debris Flow
(coffee break)
Talk 2: Kimberlite
12:00am 1:00pm: lunch break
1:00pm 2:00pm
Talk 3: Water-Magma Interaction in Island Arcs

会場へのアクセスは以下のウェブページを御覧ください。
西千葉キャンパスへのアクセス
http://www.chiba-u.ac.jp/e/about/map_addr/trans-map.html
キャンパス・マップ
http://www.chiba-u.ac.jp/e/about/map_addr/nishi-chiba.html
連絡先 千葉大学理学部地球科学科
津久井 雅志
tsukui@faculty.chiba-u.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月18日送信しました)

○2006 秋季大会 Web 申込

Webによる参加登録、参加料等のカード決済の締切は9月25日(月)です。
<http://www.aso.vgs.kyoto-u.ac.jp/kazan2006/>
なお登録の際、会員番号が必要になりますのでご注意ください。

会員番号は2005年12月以降に送付された「火山」の封筒ラベル下部に印字されている5桁の数字です。不明の方は、事務局までお問い合わせください。(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月22日送信しました)

○GEO Grid Symposium 2006のご案内

このたびは独立行政法人産業技術総合研究所が取り組むGEO Gridをご紹介します。GEO Grid シンポジウム 2006を開催する運びとなりました。

GEO Grid はグリッド技術を用い、地球観測衛星データの大規模アーカイブや、各種観測データベースやGISデータと統合したサービスを安全かつ高速に提供し、これらのデータをユーザが簡単に使えることを目指したシステムです。

本シンポジウムではGEO Grid システムの概要の紹介と共に、地質や環境をはじめ、所内外の方々による様々な応用への可能性が紹介されます。将来の連携に向けて、この機会をご活用頂ければと存じます。多数の皆様のご来場お待ちしております。

産業技術総合研究所地質調査情報センター長 栗本史雄
<http://www.gtrc.aist.go.jp/event/gtrc/2006GEO.html>

◆日時: 10月11日(水) 13:00-18:00 (懇談会 18:00-)

◆場所: 秋葉原ダイビル2階コンベンションホール

◆主催: 産業技術総合研究所

◆参加申込: こちら <https://www.apgrid.org/entry/GEOGrid2006.html>

◆主な内容:

GEO Grid の概要紹介(目的, 目標, 研究の特徴など) 応用への可能性

◆プログラム (予定, 敬称略)

13:00-13:10

(開会) 産総研研究コーディネータ 佃栄吉

13:10-13:30

(開会挨拶) 産総研副理事長 小玉喜三郎

(来賓挨拶) 経済産業省宇宙産業室室長 飯田陽一

(来賓挨拶) 宇宙航空研究開発機構執行役 小澤秀司

13:30-14:15 (紹介)

「GEO Grid プロジェクトの概要紹介」

産総研グリッド研究センターセンター長 関口智嗣

14:15-14:45 (デモ)

「GEO Grid デモンストレーション」

産総研グリッド研究センター

地球観測グリッドチーム長 土田聡

14:45-15:30 (招待講演)

「Cyberinfrastructure for the Solid Earth Sciences」(英語での講演) カリフォルニア大学サンディエゴ校,

GEON プロジェクトサイエンスディレクタ

Chaitan Baru 氏

(15:30-16:00 休憩, デモ)

16:00-16:15 (講演: 防災)

「ASTER 標高データによる火山重力流シミュレーション」

産総研地質調査情報センター 宝田晋治

16:15-16:30 (講演: 環境)

「地上観測・衛星データ・モデルを用いた炭素フラックスの推定」 産総研地質情報研究部門 佐々井崇博

環境管理技術部門 三枝信子

16:30-16:45 (講演)

「地球温暖化研究への応用」

国立環境研究所地球環境研究センター 山形与志樹

16:45-17:00 (講演)

「題目未定」

宇宙航空研究開発機構

地球観測研究センター 島田政信

17:00-18:00 (デモ)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月4日送信しました)

○カレンダー販売 事業委員長 伊藤英之

日本火山学会では、一般市民への普及啓発活動の一環として、誠文堂新光社との共同プロジェクトにより、火山の自然を題材としたカレンダー「躍動する地球」2007年版を、昨年に引き続き2006年10月5日に刊行しました。

本学会会員の白尾元理氏・井村隆介氏・中野俊氏撮影による美しくもダイナミックな13葉の写真からなる素晴らしいカレンダーで、わかりやすい解説が付されています。

サイズ: 天地 297×左右 297mm (上下見開きのため、開くと天地 594mm)

写真見本とレイアウトを以下のページで見られます。

<http://www.soc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/2007calendar.html> 入手方法と価格については以下の通りです。

○会員価格: 1,400円(税込) 火山学会熊本講演会会場での手渡し販売価格です。申し込みの必要はありません。会場で直接お買い求めください。

○会員価格: 1冊 1,600円(税込, 送料込み) 複数部購入の場合には、送料は1冊 290円, 2~3冊 340円, 4~6冊 450円, 7~10冊 590円, 11冊以上関東 700円, 九州北海道 900円, 上記以外 1,100円で計算します。

支払いは商品到着後の振込みとなります

会員の方々は以下のページから注文が可能です。11月末日まで受け付けます。

http://www.soc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/2007_calendar_app.html

なお、本カレンダーは一般書店でも1,680円(税込)で販売されています。

非会員の方は書店でお求めください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月7日送信しました)